

(様式第 3 号)

年度調査研究中間報告書

調査研究 課 題	茨城県内におけるリケッチア保有マダニの浸潤状況の解明							
担 当 者	大澤修一、渡邊颯太、小室慶子、大久保朝香、坪山勝平、絹川恵里奈、 會田未希、本谷匠							
計 画 期 間	令和 2 年度～7 年度 6 年間							
経 費	年 度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	計
	計画額 (千円)	155	8,438	9,276	8,958	7,906	6,141	40,874
	実績額 (千円)	155	8,438	9,276	8,958	7,906		
調 査 研 究 計 画	県内10ヵ所において、マダニを採取し、リアルタイムPCR法によりリケツ チアを検出する。採取したマダニの種類及び検出したリケツチアを衛生研究 所HPに掲載するなど、リケツチア感染症に対して注意喚起を行う。							
進 捗 状 況	令和 2 年度～令和 4 年度までは、県内 10 ヲ所でマダニ調査を実施して いたが、令和 5 年度はマダニの分布をさらに詳細に調べるために調査対 象地点を 19 ヲ所に拡大した。令和 6 年度は、マダニの季節消長を調査す るため、県南地域 2 地点を中心に月に 1 回程度定期的にマダニ調査を実 施した。							
こ れ ま で の 成 果 の 概 要	これまでの調査において、3 属 11 種類のマダニが県内に生息すること がわかった。また、日本紅斑熱の原因となるリケツチア・ジャポニカを ヤマアラシチマダニから検出した。リケツチア・ジャポニカはヤマアラ シチマダニからのみ検出されており、県内の日本紅斑熱の発生にヤマア ラシチマダニが関与すると考えられた。また、県外で感染症の発生が報 告されているリケツチア・タムラエがタカサゴキララマダニから高率に 検出された。県内のマダニの分布およびリケツチアの保有状況について、 論文を投稿した。 【投稿論文】 Kiyasu Y, Osawa S, Tsutsumi N, Terada N, Nagata N. Distribution of ticks and their possession of spotted fever group Rickettsia in Ibaraki prefecture. J Infect Chemother. 2024;30(7):590-596. doi:10.1016/j.jiac.2023.12.013							

今 後 の 計 画 ・ 課 題 対 応 方 法	県内において日本紅斑熱発生地域は拡大している。発生地域の拡大には野生動物の移動に伴うマダニの移動が関与していると考えられるが、野生動物とマダニの関係については調査が不十分である。リケッチア・ジャポニカの県内動態の解明には、野生動物に付着するマダニなども調査する必要がある。
-------------------------------	--

※ 研究成果等の資料があれば添付すること。

(様式第 11 号)

中間評価結果報告書

令和 7 年 9 月 11 日

衛生研究所長 殿

茨城県衛生研究所評価委員会

委員長 木村 博一

(押印又は自署)

調査研究課題	茨城県内におけるリケッチア保有マダニの浸潤状況の解明
--------	----------------------------

評価項目	評 価	意 見	備考
①必要性	5、5、5、5、 5、5、5 平均評価点 5.0	リケッチア保有マダニによる感染症の未然防止、および早期診断、早期治療の重要性は更に増しており、リケッチア保有マダニの浸潤状況の解明は対策を検討するために重要である。	
②進捗状況	5、5、5、5、 3、5、5 平均評価点 4.7	県内の植生マダニの種類とリケッチアの調査実績を基に、調査地点増加し、分布、季節変化、マダニとリケッチアの関係の知見が蓄積されてきている。	
③計画の妥当性	5、5、5、5、 5、5、5 平均評価点 5.0	リケッチアによる日本紅斑熱発生地域の拡大と、野生動物の移動に伴うマダニの移動の関係を調査する内容は適正と考える。	
④目標の達成及び活用可能性	5、5、5、5、 5、5、5 平均評価点 5.0	目標は達成できると判断する。 また、県内の発生地域拡大の要因と考えられる野生動物の調査結果の活用が期待される。	
⑤総合評価	5、5、5、5、 5、5、5 平均評価点 5.0	マダニの種別に種々の病原リケッチア保有状況を明らかにしていることを高く評価したい。今後、ダニの生息域、種別（経卵感染の有無を含めた）ならびにリケッチア感染症の疫学が明らかになることを期待したい。 また、県民向けの成果の活用が期待される。	
⑥継続実施の評価 A：実施相当 B：計画を見直し 実施相当 C：実施不可相当	A：7名 B：0名 C：0名 最終評価 A B C	評価の理由や助言等 (評価「B」の場合は見直しを要する事項)	

評価点 1：不良 2：やや不良 3：普通 4：やや良好 5：良好